



本

東村立 高江小学校
 学校便り【虹】
 2020年6月10日
 発行責任者 校長 宮城達也

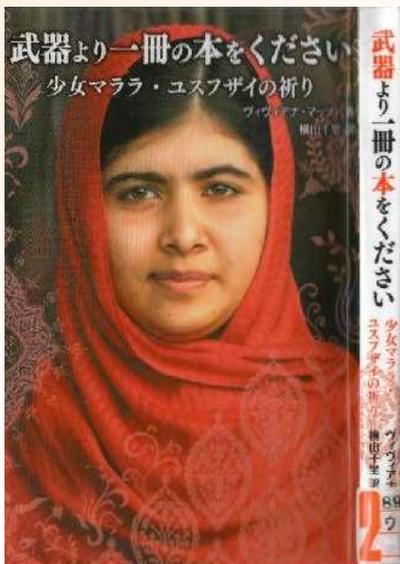
当たり前ではない幸せ！という話を校長講話でしました！

9日（火）の校長講話では「毎日学校に通える。毎日勉強ができる。お友達と会える。遊べる。当たり前ではない この幸せをかみしめよう！」というメッセージを込めてパワーポイントを使って、次の様なことを子どもたちにお話ししました。まず世界にはどのくらい学校に通えない子どもたちがいるのかクイズを出しました。そして「なぜ学校に行けないのか？」「学校に通えないとどうなるのか？」を考えさせました。



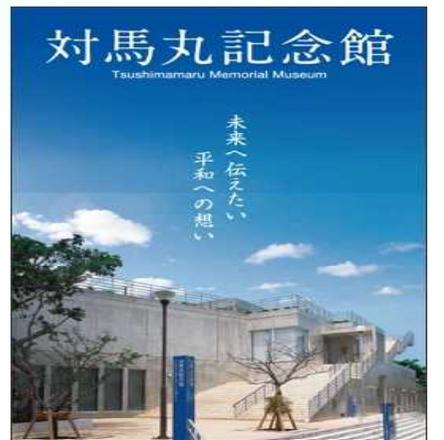
今回の校長講話は、コロナウイルス感染拡大防止のために2か月近く学校に通えなかった現状を振り返り、世界の子供たちの現状と合わせて、学校に毎日通えること、勉強できることが当たり前ではないことを知ってもらいたいという思いでお話ししました。後半ではドキュメンタリー映画「世界の果ての通学路」から、それぞれ困難な状況を乗り越え、毎日数時間をかけて学校に通う4組の子どもたちの姿を紹介し、それほどまでに時間をかけて学校に通い、一生懸命勉強するかれらの姿と自分自身とを重ね合わせて考えてもらいました。今回の講話を通して、学校に通えること、勉強ができることのありがたさが、少しでも子どもたちに通じてくれたらと思っています。

また、お話の途中で「女の子」という理由で教育の機会を奪われることに異議を唱え、命の危機を乗り越えて女子教育の重要性を訴えるマララ・ユスフザイさん(ノーベル平和賞受賞者)も少し紹介しました。彼女のことについては、機会があればまた詳しくお話ししたいと思っています。また、映画「世界の果ての通学路」をまだ観ていなければ、レンタルDVDやインターネットでも観れますのでぜひご覧になってみて下さい。お薦めです。



今月は平和月間です。平和学習で対馬丸記念館を訪ねます！

平和月間の取組として図書館では沖縄戦に関する読書コーナーを設置したり、また廊下には戦争や平和に関する資料も掲示されています。23日（火）の慰霊の日に合わせて、学校では20日（土）に全校児童・職員で那覇市若狭にある対馬丸記念館を訪ねる計画を立てています。記念館では戦争や疎開に至るまでの経緯や、対馬丸が撃沈されてからの遭難体験等について展示資料を通して学習します。また今回は記念館の計らいで、遺族の方から直接お話しを聞けることになっています。戦後70年余、戦争体験を語れる語り部がだんだんと少なくなっていく中で、沖縄戦の実情を知る貴重な機会になるものと思っています。当日は土曜日ですが、行き先が那覇市のため午後までの日程になります。お弁当の準備などよろしくお願い致します。詳しくは追って文書でお知らせします。



◆ 子供たちが平和への願いを込めて描いた絵画を紹介します。右下は第29回「児童生徒の平和メッセージ展」で最優秀賞を受賞した 荘司七羽さんの作品「にじがあるへいわなせかい」です。



荘司蓮さんの作品



荘司七羽さんの作品



アントン 和抱さんの作品



荘司七羽さんの作品

